






病害虫発生予察情報予報第 4 号


佐賀県農業技術防除センター

I. 予報の概要

作物名	病害虫名	8月の予想発生量 ^{注1)}		病害虫防除の てびきの記載 頁 ^{注2)}	予報対象の病害虫 (抜粋)	
		平年比	前年比			
普通作	早期 水稲 (上場 地域)	紋枯病	多	多	149~151	
		斑点米カムシ類	やや多	多	167~168 185~188	
	特記事項 1. 紋枯病 各圃場での発生状況を確認し、病斑が上位3葉の葉鞘に達している場合は直ちに防除を行う。					
	山間 早植え 水稲	穂いもち	並	少	142~147	 紋枯病
		紋枯病	多	多	149~151	
		トビイロウンカ	やや多	多	157~159	
		コブノメイガ	多	多	164~165	
		斑点米カムシ類	やや多	多	167~168 185~188	
	特記事項 1. いもち病 進展型病斑がみられる圃場では早急に防除を行う。葉いもちの発生ほ場では、穂ばらみの防除を徹底する。 2. 稲こうじ病 水和剤、粉剤を使用する場合には出穂 20~10 日前に中心に処理する。					
	普通期 水稲	穂いもち	並	やや少	142~147	 トビイロウンカ
紋枯病		多	やや多	149~151		
白葉枯病		並	並	148~149		
もみ枯細菌病		並	並	151~153		
トビイロウンカ		やや多	多	157~159		
コブノメイガ		やや多	やや多	164~165		
フタオビコヤガ		やや多	多	170~171		
斑点米カムシ類		やや多	多	167~168 185~188		
特記事項 1. トビイロウンカ 各圃場での発生状況を確認し、幼虫ふ化揃い期（防除適期）の防除を徹底する。 2. いもち病 進展型病斑がみられる圃場では早急に防除を行う。葉いもちの発生ほ場では、穂ばらみの防除を徹底する。 3. 稲こうじ病 水和剤・粉剤を使用する場合には出穂 20~10 日前に、粒剤の場合は出穂 30~20 日前を中心に処理する。						
普通作 全般	1. 薬剤散布の際の留意点 薬剤散布は、周辺の環境に十分配慮し行う。特に、ミツバチの被害を回避するため、養蜂農家に農薬の散布時期や散布時間等を予め伝達するなどの対応を取る。					

作物名	病虫害名	8月の予想発生量 ^{注1)}		病虫害防除の てびきの記載 頁 ^{注2)}	予報対象の病虫害 (抜粋)	
		平年比	前年比			
野菜	イチゴ(育苗圃)	ハダニ類	多	多	204~205	 炭疽病による葉の汚斑症状
		うどんこ病	やや少	並	194~196	
		苗立枯症 (炭疽・疫病)	やや多	やや多	198~202	
		アブラムシ類	並	並	210~211	
	特記事項					
	1. ハダニ類 一部の圃場で発生がみられる。古葉の葉かぎを行うとともに丸噴口等を用いて丁寧に薬剤散布を行い、苗での発生を抑える。					
	2. 炭疽病、疫病、萎黄病 各病害とも一部圃場で発生が認められる。発病した親株および苗は直ちに圃場外で適切に処分し、周辺の苗への伝染を抑える。また、炭疽病については10~14日間隔での薬剤防除を実施する(平成28年7月14日付け病虫害対策資料第2号参照)。					
	アスパラガス	褐斑病	多	多	314~315	 ハダニ類
		茎枯病	並	並	313	
		斑点病	並	並	314	
アザミウマ類		並	並	317		
ハダニ類		やや多	多	317~318		
特記事項						
1. 褐斑病 平年に比べ初発が早く発生が多い。晴天日には施設開口部を開放し通風を図るとともに、発生初期からの防除を徹底する。						
2. 茎枯病 降雨時はサイドビニルを降ろし雨の降り込みを防ぐ。また、発病茎は見つけ次第除去し、圃場外で適切に処分する。						
3. ハダニ類 一部の圃場で発生がみられる。若茎及び親茎への寄生や食害による被害を防ぐため、虫見板(約20×30cm)への払い落とし調査(擬葉部を2~3回叩く)を実施し、寄生が認められる場合は薬剤防除を行う。						

作物名	病虫害名	8月の予想発生量 ^{注1)}		病虫害防除の てびきの記載 頁 ^{注2)}	予報対象の病虫害 (抜粋)	
		平年比	前年比			
果 樹	カンキツ	かしよう病	並	並	220~222	カンキツ黒点病 
		黒点病	多	多	218~220	
		ミカンハダニ	やや多	やや多	239~242	
		チャノキアザミマ	並	やや多	236~238	
特記事項 1. 黒点病 秋雨は発病を助長するので、8月にも防除を徹底する。マンゼブ水和剤散布後の次回散布は、積算降雨量が200mm~250mmに達した時点を目安とする。ただし、積算降雨量に達しない場合でも、散布後1ヶ月を目途に次の散布を行う。マンゼブを含む農薬を4回使用した場合は、他の薬剤で対応する。 枯れ枝は伝染源となるので除去し、処分する。また、防風樹の剪定等を行い、通風をよくする。						
2. アザミウマ類 チャノキアザミウマによる後期被害を防ぐために、8月中旬~9月上旬頃の防除を徹底する。特に発生源となるイヌマキ、サンゴジュ等を防風樹として植栽している園や、園内にチャ、ヒサカキ等の樹木が植栽されている園では注意する。また、園内および園周囲の雑草は、ミカンキアザミウマやハナアザミウマ類の発生源となるので、着色前までに除草作業を終わらせる。						
3. ミカンハモグリガ・アゲハ 幼木園や夏期剪定を終えたハウスミカン園では、ミカンハモグリガ・アゲハ対策として10~14日毎に殺虫剤を散布する。ただし、薬剤抵抗性の発達を回避するために、異なる系統の殺虫剤を散布する。						
ナシ	ナシハダニ	多	多	296~299		
	ハダニ類	やや多	並	301~303		
特記事項 1. 夜蛾類 被害を防止するため、忌避灯を点灯する時間及び点灯時の園内の明るさに注意する。						
ブドウ	べと病	並	並	330~332		
	褐斑病	並	並	332~333		
特記事項 1. べと病 降雨により発病が進展するので、降雨前の予防散布を徹底する。ストロビルリン系殺菌剤（アミスターフロアブル、ストロビードライフロアブル等）については、耐性菌が発生しているため、本病の防除には使用しない。また、べと病の罹病葉は、二次伝染源となるので必ず除去し、園外に持ち出して適切に処分する。						
2. 晩腐病 果実が過熟になると晩腐病の発生が助長されるので、適期に収穫する。						
果樹全般	果樹カメムシ類	やや少	やや少	カンキツ：245~248 ナシ：299 ブドウ：344		

作物名	病虫害名	8月の予想発生量 ^{注1)}		病虫害防除の てびきの記載 頁 ^{注2)}	予報対象の病虫害 (抜粋)
		平年比	前年比		
茶	炭疽病	並	並	393~394	 クワシロカイガラムシ (雄繭)
	輪斑病	並	少	394	
	カンザワバダニ	やや多	やや少	398~399	
	クワシロカイガラムシ	やや多	多	405~406	
	チャノミドリヒメヨコバイ	やや多	多	403~404	
	チャノキアザミマ	やや多	多	404~405	
	チャノコカクモンハマキ	やや多	多	401~403	
	チャノホガ	並	並	400~401	
特記事項 1. チャノキアザミウマ、チャノミドリヒメヨコバイ 秋の発生を抑えるため、萌芽期~開葉初期に防除を行う。多発生園では、さらに一週間後を目安に追加防除を行う。 2. チャノコカクモンハマキ 8月上~中旬頃が重点防除時期である。葉がつづられると防除効果があがりにくいいため、適期(発蛾最盛期から7~10日後)に防除を行う。 3. チャトゲコナジラミ 8月上~中旬頃が防除適期である。園内の発生状況をよく観察して、成虫が見られなくなった頃(若齢幼虫発生期)に防除を徹底する。					

注1) 予想発生量については、平年および前年との比較により記載しているため、実際の発生量とは相違を生じる場合があります。例えば、例年の発生量が少ない病虫害について「平年および前年より多い」と予想した場合であっても、実際の発生量は多くない場合があります。

注2) 防除対策については「[佐賀県病虫害防除のてびき](#)」も参照してください。

II. 予報の内容・根拠等について

予報内容（来月の予想発生量）

- 平年（過去 10 年間）及び前年と比較し「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
 なお、少発生が予想される病害虫等については、予報の概要のみの記載となる場合があります。

予報内容の根拠

- 農業技術防除センターが実施する県内各地での調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生現況、気象予報からみた病害虫の発生条件等を基に、関係者による発生予察会議で決定します。
- 発生現況および気象条件が来月の病害虫の発生に及ぼす影響については、(－)：少発生、(－～±)：やや少発生、(±)：並発生、(±～＋)：やや多発生、(＋)：多発生として示しています。

防除上注意すべき事項

- 各病害虫を防除する上で特に注意すべき事項等を記載しています。なお、全般的な防除対策については「県防除のてびき」をご参照ください（1 ページの予報の概要にリンク有り）。

写真

- 1 ページ目：予報で対象とした病害虫を抜粋して掲載しています。
 6 ページ目以降：巡回調査時の各作物の生育状況を掲載しています。

8 月の気象条件

- 病害虫の発生に関与する 8 月の気象条件については、福岡管区気象台発表の 3 ヶ月予報（平成 28 年 7 月 25 日）を基に、「気温：平年より高い」、「降水量：平年並」と判断しています。

気象予報による要素別確率(%)及び病害虫の発生に関与する気象条件

要素	3 ヶ月予報における 7 月の気象予報（確率予報%）			病害虫の発生に関与する気象条件（平年比）
	低い(少ない)	平年並 (佐賀市の平年値)	高い(多い)	
気温	20	30 (27.8℃)	50	高い
降水量	40	30 (196.9 mm)	30	並

Ⅲ. 8月の予報

早期水稲（上場地域）

巡回調査 7月19日



巡回調査圃場の様子（早期水稲）

1. 紋枯病

- 1) 予報の内容
発生量：平年より多い（前年より多い）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ①巡回調査（図1参照）
発生株率 1.7%（平年 2.6%、前年 2.0%）
平年比：並（±） 前年比：並（±）
 - ②8月の気象予報
気温は高く、多発生の条件（+）
 - (2) 8月の気象予報
気温は高く、多発生の条件（+）
- 3) 防除上注意すべき事項
特記事項を参照。

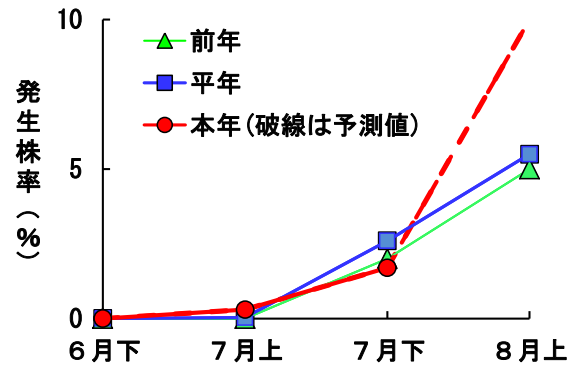


図1 早期水稲での紋枯病の発生推移

2. 斑点米カメムシ類

水稲（早植え）の斑点米カメムシ類の項参照。

水稲（山間早植え）

巡回調査 7月25日



巡回調査圃場の様子（早植え水稲）

1. 穂いもち

- 1) 予報の内容
発生量：平年並（前年より少ない）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ①巡回調査（図1参照）【葉いもち】
発生株率 7.0%（平年 7.5%、前年 9.3%）
平年比：並（±） 前年比：並（±）
 - ②感染好適条件発生状況【県内、隣接県 計11地点】
BLASTAM（7月19日～25日）において、感染好適条件、感染準好適条件とも出現しない（表3）。（一～±）
 - (2) 8月の気象予報
並発生の条件（±）
- 3) 防除上注意すべき事項
葉いもちの発生がみられるほ場では、穂ばらみ期の防除を徹底する。発生が多いと予想される場合には穂揃い期にも防除を行う。

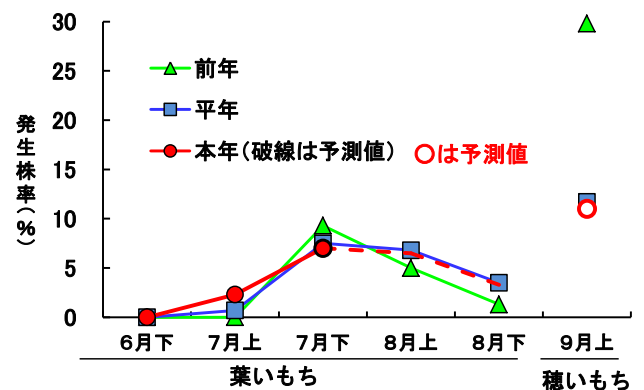


図1 山間早植え水稲でのいもち病の発生推移

2. 紋枯病

- 1) 予報の内容
発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査(図1参照)

発生株率 0.3% (平年 0.3%、前年 0%)

平年比: 並(±) 前年比: 並(±)

(2) 8月の気象予報

気温が高く、多発生の条件(+)

3) 防除上注意すべき事項

本病の発生が見られる圃場では、病斑が上位葉の葉鞘に進展する前に防除を行う。

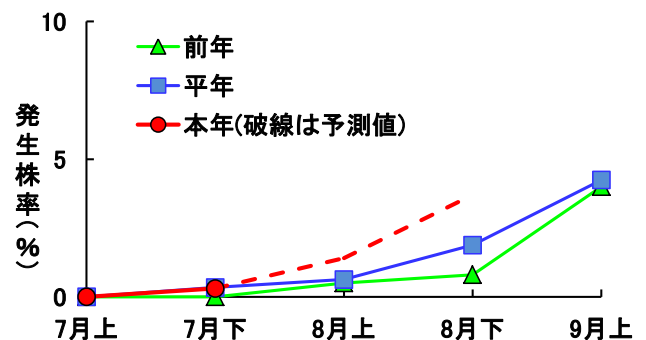


図1 山間早植え水稻での紋枯病の発生推移

3. トビイロウンカ

1) 予報の内容

発生量: 平年よりやや多い (前年より多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査(図1参照)

発生株率 0% (平年 2.9%、前年 0%)

平年比: 並(±) 前年比: 並(±)

(2) これまでの飛来状況

6月21日頃、6月30日頃と7月16日頃に、予察灯(嬉野市)において誘殺を確認し、飛来量は平年並である(表4)。<±>

(3) 8月の気象予報

気温が高く、多発生の条件(+)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 発生予想パターン図(図3)を参考にして、必ず圃場における発生状況を調査し、幼虫ふ化揃い期(防除適期)に防除を徹底する(平成28年7月20日付病害虫対策資料第4号参照)。

(2) 本虫は株元に生息しているため、薬剤は株元にむらなくかかるように、十分量を丁寧に散布する。

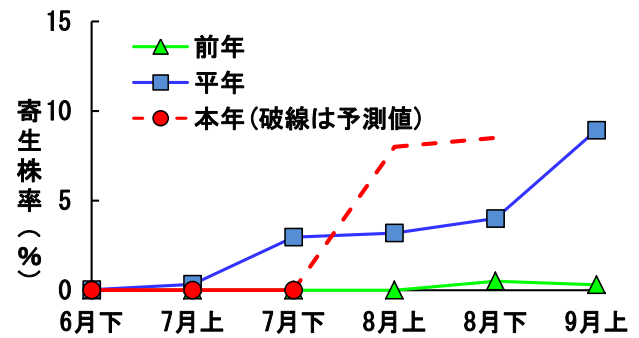


図1 山間早植え水稻でのトビイロウンカの発生推移

4. コブノメイガ

1) 予報の内容

発生量: 平年より多い (前年より多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査(図1参照)

発生株率 5.5% (平年 1.9%、前年 1.3%)

平年比: やや多(±~+) 前年比: やや多(±~+)

(2) これまでの飛来状況

やや少(表4) <-~±>

(3) 8月の気象予報

気温が高く、多発生の条件(+)

3) 防除上注意すべき事項

止葉を含む上位3葉への被害を防止するため、圃場における発生状況を確認し、発蛾最盛期の7日後(幼虫ふ化揃い期)に防除を実施する。

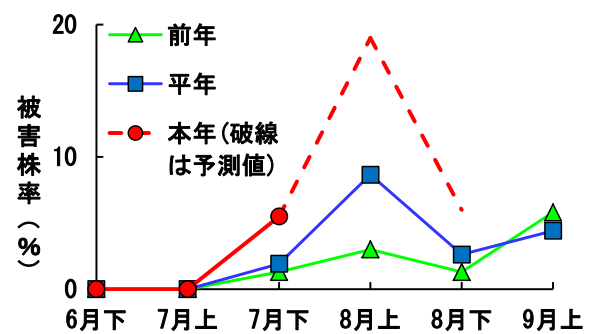


図1 山間早植え水稻でのコブノメイガの発生推移

5. 斑点米カメムシ類(クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、シラホシカメムシ類、アカスジカスミ

カメ、ミナミアオカメムシ等)

1) 予報の内容

発生量: 平年よりやや多い (前年より多い)

2) 予報の根拠

- (1) 水田隣接のイネ科植物での捕虫網によるすくい取り調査（7月19～25日）
発生は平年よりやや少なく前年並（表1）〈ー～±〉
- (2) 8月の気象予報
気温が高く、多発生の条件〈+〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 水田周辺の雑草地（畦畔、休耕田、空き地等）は斑点米カメムシ類の増殖・被害源となるので、除草を徹底する。なお、水稻の出穂直前に除草すると斑点米カメムシ類が水田内に移動することになるので、除草は水稻の出穂10日前までに行う。
- (2) カメムシ類の生息数は地域ごとに異なるので、すくい取り調査や見取り調査を行い、防除要否（穂揃い期～乳熟期に、ほ場内で20回すくい取りで5頭以上いる場合は防除を実施）を判断する。
- (3) 多発生時は穂揃い期とその7～10日後に防除を行う。少発生の場合は乳熟期（穂揃い期の約10日後）を中心に防除を行う。

表1 斑点米の原因となるカメムシ類のイネ科植物におけるすくい取り調査結果
20回すくい取り虫数(2016年7月19～25日)

調査地点	場所	草種	ケモリカメムシ		ホリカメムシ		シラホカメムシ類		アカシカメムシ		ミナミアカメムシ
			成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫
佐賀市西与賀町	道端	エノコグサ類	1	4	0	0	0	1	2	0	0
佐賀市東与賀町	道端	エノコグサ類	2	2	0	0	0	0	3	1	0
佐賀市諸富町	道端	エノコグサ類	17	13	0	1	0	0	0	0	0
佐賀市川副町	道端	エノコグサ類	0	0	3	1	0	0	20	2	0
唐津市肥前町	道端	エノコグサ類	7	7	0	1	0	0	0	0	0
小城市芦刈町	道端	エノコグサ類	0	0	0	0	0	0	23	0	0
武雄市橘町	空き地	エノコグサ類、ヒシハ	0	0	2	0	0	0	15	0	0
神崎市神埼町	道端	エノコグサ類	0	0	0	0	0	7	8	0	0
嬉野市塩田町	空き地	エノコグサ類	3	5	5	1	0	0	11	0	0
白石町	道端	エノコグサ類	0	0	2	0	0	0	25	0	0
吉野ヶ里町	道端	エノコグサ類	0	0	0	0	0	0	3	18	0
みやき町	空き地	ヒシハ類	0	0	7	4	1	7	1	0	0
本年（平均）			2.5	2.6	1.6	0.7	0.1	1.3	9.3	1.8	0.0
前年（平均）			1.8	1.1	0.3	0.1	0.2	0.4	15.0	13.5	0.0
平年（過去10年の平均）			3.7	6.8	1.3	0.8	0.5	0.7	18.7	11.1	0.0

水稻（普通期水稻）

（巡回調査日：7月19～25日）



巡回調査圃場の様子（普通期水稻）

1. 穂いもち

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年よりやや少ない）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）【葉いもち】

発生株率9.3%（平年1.9%、前年10.6%）
（発生圃場率22.9%）

平年比：多〈+〉 前年比：並〈±〉

(2) 感染好適条件発生状況【県内、隣接県 計11地点】

BLASTAM（7月19日～25日）において、感染好適条件、感染準好適条件とも出現していない（表3）。〈ー～±〉

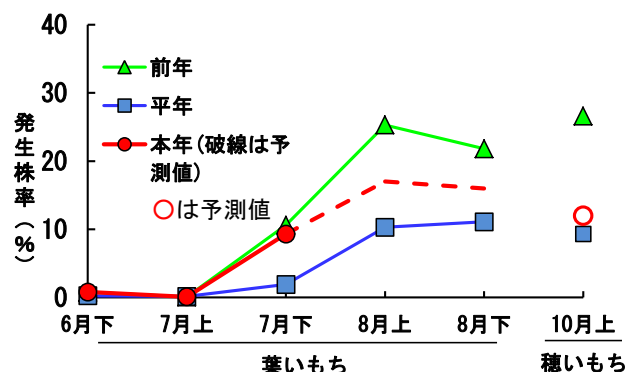


図1 普通期水稻でのいもち病の発生推移

- (3) 8月の気象予報
並発生の条件〈±〉
- 3) 防除上注意すべき事項
葉いもちの発生がみられるほ場では、穂ばらみ期の防除を徹底する。発生が多いと予想される場合には穂揃い期にも防除を行う。

2. 紋枯病

- 1) 予報の内容
発生量：平年より多い（前年よりやや多い）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ①巡回調査（図1参照）
発生株率0%（平年0.0%、前年0%）
平年比：並〈±〉 前年比：並〈±〉
 - (2) 8月の気象予報
気温が高く、多発生の条件〈+〉

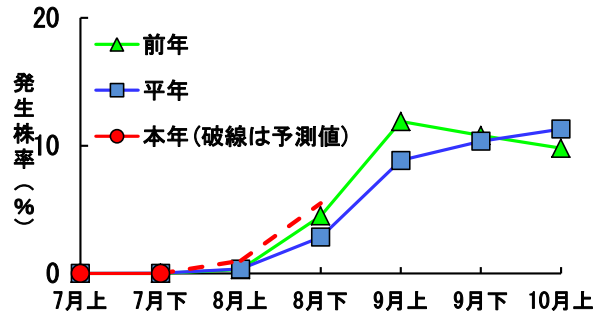


図1 普通期水稻での紋枯病の発生推移

- 3) 防除上注意すべき事項
本病が発生している圃場では、病斑が上位葉の葉鞘に進展する時期（液剤、粉剤の場合は出穂 10～20 日前を目安とする）に防除を行う。

3. 白葉枯病

- 1) 予報の内容
発生量：平年並（前年並）
- 2) 予報の内容
 - (1) 発生の現況
 - ①巡回調査
発生株率0%（平年0.0%、前年0%） 平年比：並〈±〉 前年比：並〈±〉
 - (2) 8月の気象予報
並発生の条件〈±〉
- 3) 防除上注意すべき事項
台風等の強風雨後には多発生するので注意する。

4. もみ枯細菌病

- 1) 予報の内容
発生量：平年並（前年並）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 8月の気象予報
並発生の条件〈±〉
- 3) 防除上注意すべき事項
気象予報に留意し、開花期間中に降雨が予想される場合は、出穂前後3日の間にスターナ剤による防除を行う。

5. トビイロウンカ

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや多い（前年より多い）
- 2) 予報の根拠

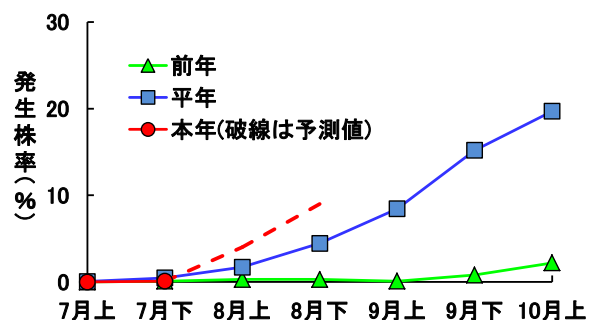


図1 普通期水稻でのトビイロウンカの発生推移

(1) 発生の現況

①巡回調査(図1参照)

発生株率0% (平年0.5%、前年0%) 平年比: 並(±) 前年比: 並(±)

(2) これまでの飛来状況

6月21日頃、6月30日頃と7月16日頃に、予察灯(嬉野市)において誘殺を確認し、飛来量は平年並である(表4)。(±)

(3) 8月の気象予報

気温が高く、多発生の条件(+)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 発生予想パターン図(図3)を参考にし、必ず圃場における発生状況を調査し、幼虫ふ化揃い期(防除適期)に防除を徹底する(平成28年7月20日付病害虫対策資料第4号参照)。

(2) 本虫は株元に生息しているため、薬剤は株元にむらなくかかるように、十分量を丁寧に散布する。

6. コブノメイガ

1) 予報の内容

発生量: 平年よりやや多い (前年よりやや多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査(図1参照)

発生株率0.8% (平年3.9%、前年1.2%)

平年比: やや少(一~±) 前年比: 並(±)

(2) これまでの飛来状況

やや少(表4参照)(一~±)

(3) 8月の気象予報

気温が高く、多発生の条件(+)

3) 防除上注意すべき事項

止葉を含む上位3葉への被害を防止するため、圃場における発生状況を確認し、発蛾最盛期の7日後(幼虫ふ化揃い期)に防除を実施する。

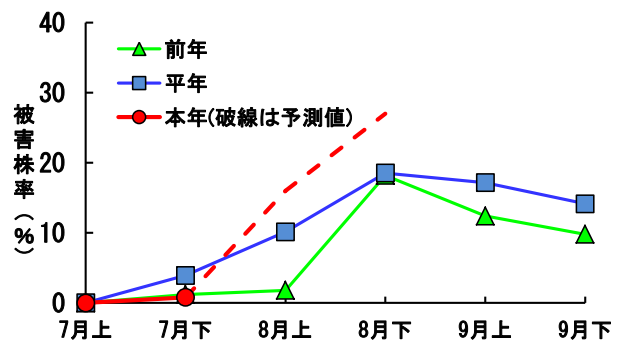


図1 普通期水稻でのコブノメイガの発生推移

7. フタオビコヤガ(イネアオムシ)

1) 予報の内容

発生量: 平年よりやや多い (前年より多い)

2) 予報の根拠

(1) 本年の予察灯及びフェロモントラップ調査

誘殺数は、平年よりやや少なく前年並(表2)(一~±)

(2) 8月の気象予報

気温が高く、多発生の条件(+)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 8月中~下旬頃に圃場における発生状況を確認し、必要に応じて防除を実施する。

8. 斑点米カメムシ類

水稻(早植え)の斑点米カメムシ類の項参照。

表2 フタオビコヤガのトラップ誘殺状況(佐賀市川副町, 農業試験研究センター調査)

月	半旬	予察灯			フェロモントラップ		
		平成28年	平年	前年	平成28年	平年	前年
		頭	頭	頭	頭	頭	頭
6月	1	0	2	1	25	38	15
	2	0	2	1	10	37	11
	3	0	2	0	4	25	3
	4	0	1	0	1	11	1
	5	0	0	0	1	4	0
	6	0	1	0	2	6	3
7月	1	0	1	1	1	12	5
	2	0	2	1	1	17	7
	3	0	1	0	2	11	4
	4		3	1		17	1
	5		13	3		38	5
	6		30	1		97	9
8月	1		31	1		82	7
	2		107	8		151	7
	3		140	50		276	42
	4		147	34		263	59
	5		97	12		200	24
	6		65	2		200	29
9月	1		32	2		112	60
	2		20	0		71	37

注) 予察灯の平年値は、平成18年～27年の平均。
フェロモントラップの平年値は、平成18年～27年の平均。

表3 BLASTAMによる葉いもちの感染好適条件の出現状況

月日	佐賀県						福岡県			長崎県	
	唐津	伊万里	佐賀	嬉野	白石	川副	前原	太宰府	久留米	松浦	佐世保
7月1日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
3日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
4日	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
5日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	?	—
6日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
8日	—	—	—	2	—	—	—	—	—	—	—
9日	—	2	—	—	3	—	—	3	—	2	—
10日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
11日	3	3	—	—	—	—	3	3	—	3	3
12日	—	—	—	—	—	—	—	3	—	—	—
13日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
14日	—	3	—	—	—	—	—	—	—	3	—
15日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
16日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
17日	—	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—
18日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
19日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
20日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
21日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
22日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
23日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
24日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
25日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

- 注) 1 : 準好適条件 (前5日間の平均気温は20℃未満だが、湿潤が10時間以上)
 2 : 準好適条件 (前5日間の平均気温は25℃を越えているが、湿潤が10時間以上)
 3 : 準好適条件 (湿潤期間中の平均気温は15~25℃でないが、湿潤が10時間以上)
 4 : 準好適条件 (湿潤期間中の気温は比較的低い、湿潤が10時間以上)
 10 : 好適条件 (湿潤時間が長く気温も適当で、葉いもちの感染好適条件が出現した)
 — : 好適あるいは準好適条件の出現なし
 ? : 判定不能

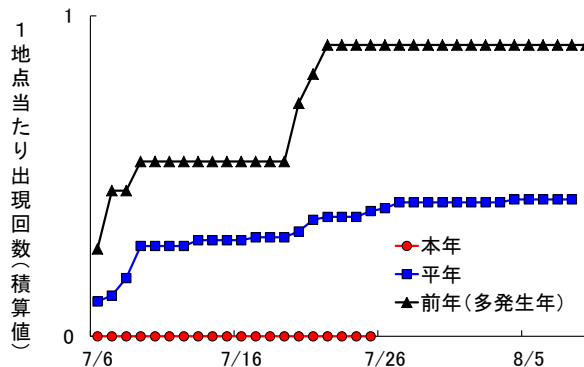


図1 BLASTAMによる感染好適条件の出現延回数
(6月16日移植の場合: 適用期間7月6日~8月9日)

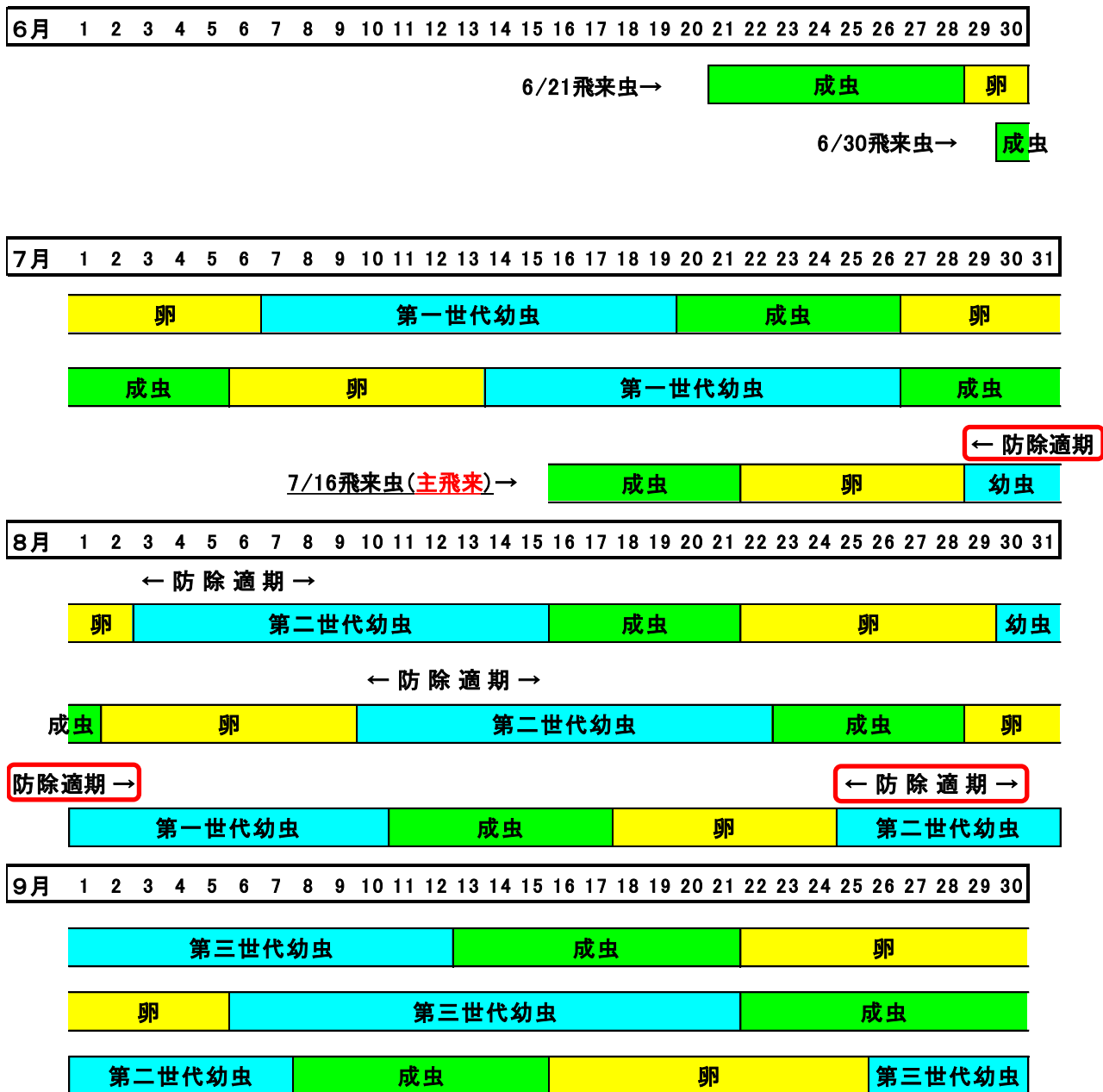
表4 ウンカ類とコブノメイガの誘殺状況(平成28年)

月	日	トビイロウンカ					セジロウンカ					コブノメイガ							
		佐賀県			長崎県		佐賀県			長崎県		佐賀県				長崎県			
		佐賀市	佐賀市	嬉野市	諫早市	諫早市	佐賀市	佐賀市	嬉野市	諫早市	諫早市	佐賀市	佐賀市	神崎市	伊万里市	白石町	嬉野市	諫早市	諫早市
		ネット トラップ	ライト トラップ	ライト トラップ	ライト トラップ	ネット トラップ	ネット トラップ	ライト トラップ	ライト トラップ	ライト トラップ	ネット トラップ	フェロモン トラップA	フェロモン トラップB	粘着トラップ (20W蛍光灯)	粘着トラップ (20W蛍光灯)	粘着トラップ (20W蛍光灯)	粘着トラップ (20W蛍光灯)	フェロモン トラップA	フェロモン トラップB
5月	25日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—	
	26日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—	
	27日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—	
	28日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—	
	29日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—	
	30日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—	
	31日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—	
6月	1日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	—	—	—	—	0	—	
	2日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	—	—	—	—	0	—	
	3日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	—	0	0	0	0	—	
	4日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	—	—	—	—	0	—	
	5日	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	—	—	—	—	—	0	—	
	6日	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	—	—	—	—	—	0	—	
	7日	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	—	—	0	0	0	0	—	
	8日	0	0	0	1	0	0	0	1	3	0	—	—	—	—	—	0	—	
	9日	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0	—	—	—	—	—	1	—	
	10日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	—	—	—	—	0	—	
	11日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	—	—	—	—	0	—	
	12日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	—	—	—	—	0	—	
	13日	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	—	—	—	—	—	0	0	
	14日	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	—	—	0	0	0	0	0	
	15日	0	0	0	0	0	4	0	2	20	0	—	—	—	—	—	0	0	
	16日	0	0	0	0	0	5	0	4	116	0	—	—	—	—	—	2	0	
	17日	0	0	0	0	0	2	0	1	10	0	—	—	—	—	—	0	0	
	18日	0	0	0	0	0	2	0	74	1	0	—	—	0	0	0	0	0	
	19日	0	0	0	2	0	3	0	5	22	5	—	—	—	—	—	0	0	
	20日	0	0	4	0	0	13	0	71	2	1	—	—	—	—	—	0	0	
	21日	0	0	0	0	0	0	0	20	65	3	—	—	0	0	0	1	0	
	22日	0	0	2	2	0	3	1	69	34	0	—	—	—	—	—	7	0.5	
	23日	0	0	0	1	0	10	0	9	71	0	—	—	—	—	—	10	0.5	
	24日	0	0	0	1	—	14	0	24	295	—	—	—	0	0	0	35	1	
	25日	0	0	0	0	—	2	0	6	3	—	—	—	0	0	0	8	1	
	26日	0	0	0	0	—	4	0	15	0	—	—	—	—	—	—	50	12.5	
	27日	0	0	0	1	—	0	0	13	14	—	—	—	—	—	—	6	5	
	28日	0	0	0	0	—	0	1	59	56	—	—	—	0	0	0	3	1	
	29日	0	0	0	0	—	0	0	130	58	—	—	—	—	—	—	4	0.5	
	30日	0	0	1	0	—	1	0	35	7	—	—	—	—	—	—	3	0.5	
7月	1日	0	0	0	0	—	2	0	2	1	—	—	—	0	0	—	0	0	
	2日	0	0	0	0	—	1	0	2	2	—	—	—	0	0	1	2	0	
	3日	0	0	1	0	—	0	0	2	0	—	—	—	—	—	—	2	0.5	
	4日	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	—	—	—	—	—	1	0.5	
	5日	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	—	—	0	0	0	2	0	
	6日	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	—	—	0	0	0	5	6	
	7日	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	—	—	—	—	—	3	1	
	8日	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	—	—	0	0	0	0	0.5	
	9日	0	0	0	0	0	0	0	7	1	0	—	—	—	—	—	0	0	
	10日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	—	—	—	—	5	0.5	
	11日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	—	—	—	—	0	0.5	
	12日	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	—	—	0	0	0	0	0	
	13日	0	0	9	2	0	0	0	34	27	1	—	—	—	—	—	0	0	
	14日	0	0	4	0	0	0	0	16	71	3	—	—	—	—	—	0	2.5	
	15日	0	0	0	0	0	1	0	4	6	0	—	—	—	—	—	0	1.5	
	16日	0	0	22	1	0	0	0	151	153	0	—	—	0	0	0	1	6	
	17日	0	0	0	0	0	0	0	8	50	0	—	—	—	—	—	0	3	
	18日	0	0	3	0	0	0	0	8	41	0	—	—	—	—	—	0	3.5	
	19日	0	0	1	0	0	0	0	11	72	0	—	—	—	—	—	0	4.5	
	20日	0	0	2	0	0	0	0	3	7	0	—	—	0	0	0	0	1	
	21日	0	0	0	0	0	0	0	1	6	1	—	—	—	—	—	0	2	
	22日	0	0	0	0	—	0	0	1	—	—	—	—	0	0	—	—	—	
	23日	0	0	0	0	—	0	0	9	—	—	—	—	0	0	—	—	—	
	24日	0	0	0	0	—	0	0	6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	25日	0	0	0	0	—	—	—	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	26日	0	0	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

注1)ウンカ類:佐賀市のトラップは農業試験研究センター調査。嬉野市のトラップは農業技術防除センター調査。
 注2)コブノメイガ:神崎市、白石町、伊万里市、嬉野市は防除員が調査。佐賀市のフェロモントラップは農業試験研究センターで調査。
 長崎県のデータは、長崎県病害虫防除所提供。

図3 トビイロウンカの発生予想パターン

(平成28年7月20日、佐賀県農業技術防除センター作成)



(注)

- (1) 6月21日、30日及び7月16日の飛来虫を起点として、有効積算温度と佐賀市川副町(農業試験研究センター内)の日最高気温及び日最低気温(7月19日までは今年の日データ、7月20日以降は平年値)を基に、その後の発生を予測した。
- (2) **防除適期は、幼虫ふ化揃い期である。**
- (3) 飛来量及び本田での増殖量は地域及び圃場ごとに異なるので、必ず各地域及び圃場ごとの発生状況を確認して防除を実施する。

イチゴ（育苗圃）

(巡回調査 12 圃場、苗を調査
調査日：7月19日～25日)



巡回調査圃場の様子

1. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 子苗での発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生株率：8.7%（平年8.7%、前年1.0%）

平年比：並（±） 前年比：やや多（±～+）

(2) 8月の気象予報

気温が高く、多発生の条件（+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 同一系統の薬剤の使用回数が増えないよう注意する。

(2) その他については特記事項を参照。

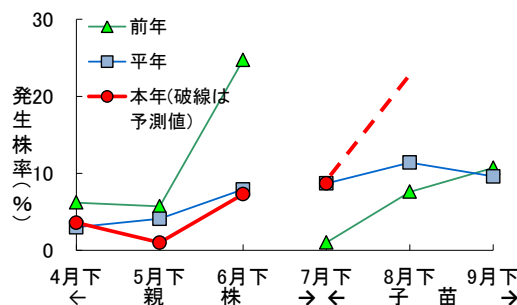


図1 ハダニ類のイチゴでの発生推移

2. うどんこ病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 子苗での発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生株率：2.7%（平年19.5%、前年8.3%）

平年比：やや少（-～±） 前年比：並（±）

(2) 8月の気象予報

やや少発生の条件（-～±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 同一系統の薬剤の使用回数が増えないよう注意する。

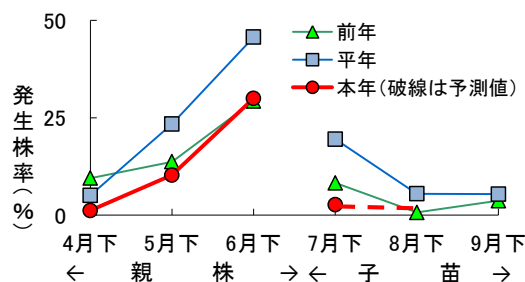


図1 イチゴうどんこ病の発生推移

3. 苗立枯症（炭疽病・疫病）

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 子苗での発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生株率：0%（平年0%、前年0%）

平年比：並（±） 前年比：並（±）

(2) 梅雨期の降雨量が平年より多く本病の感染に好適であった。（+）

(3) 8月の気象予報

並発生の条件（±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

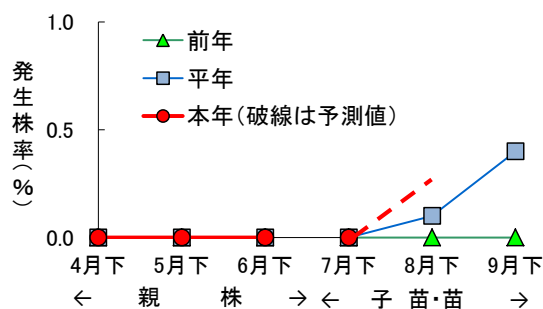


図1 イチゴ炭疽病・疫病の発生推移

アスパラガス

巡回調査 (8 圃場)
調査日：7月19日～25日



巡回調査圃場の様子

1. 褐斑病

1) 予報の内容
発生量：平年より多い (前年より多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査 (図1 参照)

発生株率：7.5% (平年3.0%、前年1.3%)
平年比：多<+> 前年比：多<+>

(2) 8月の気象予報

並発生の条件<±>

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

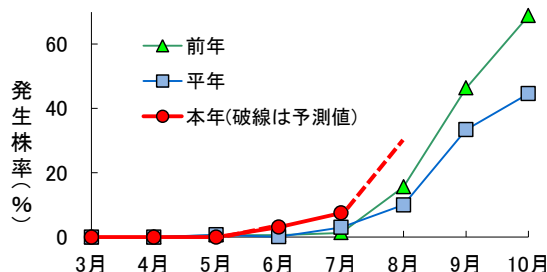


図1 アスパラガス褐斑病の発生推移

2. 茎枯病

1) 予報の内容
発生量：平年並 (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査 (図1 参照)

発生株率：0.5% (平年0.6%、前年1.9%)
平年比：並<±> 前年比：少<±>

(2) 8月の気象予報

並発生の条件<±>

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

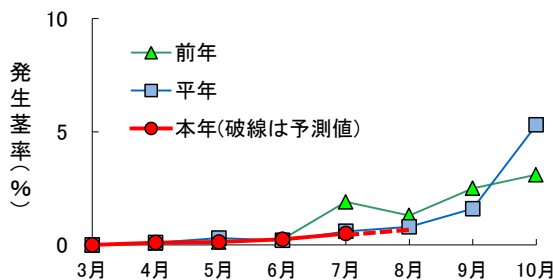


図1 アスパラガス茎枯病の発生推移

3. ハダニ類

1) 予報の内容
発生量：平年よりやや多い (前年より多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査 (図1 参照)

発生株率：0% (平年3.8%、前年0%)
平年比：やや少<-~±> 前年比：並<±>

(2) 8月の気象予報

気温が高く、多発生の条件<+>

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

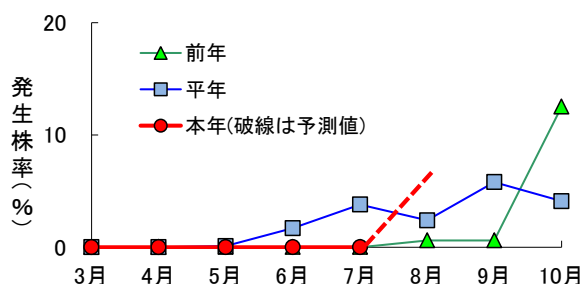


図1 ハダニ類のアスパラガスでの発生推移

カンキツ

巡回調査 (8 圃場)
7月15~21日



巡回調査圃場の様子

1. かいよう病

1) 予報の内容

発生量：平年並 (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査 (図1、2 参照)

発生葉率：0% (平年0.3%、前年0%)

平年比：やや少 (一~±) 前年比：並 (±)

発生果率：0% (平年0%、前年0.1%)

平年比：並 (±) 前年比：並 (±)

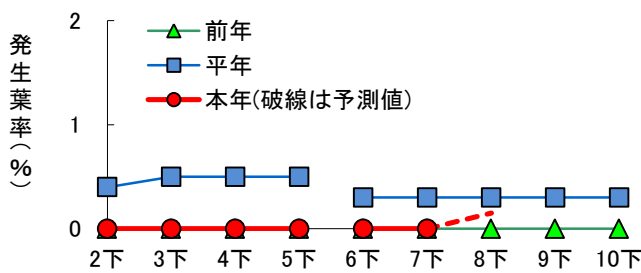


図1 カンキツかいよう病 (葉) の発生推移

(注：5月下旬までは旧葉、6月以降は新葉を調査)

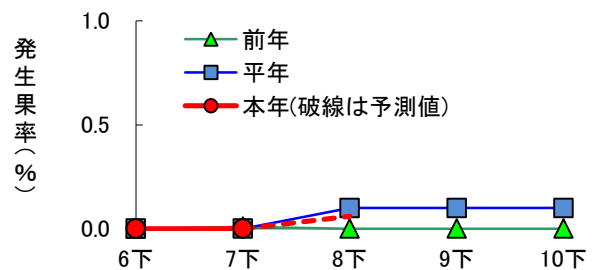


図2 カンキツかいよう病 (果実) の発生推移

(2) 8月の気象予報

並発生の条件 (±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 前年発生園や、風当たりが強い園、罹病性品種 (ネーブル、はるみ等) が植栽された園、新梢の伸長が遅くまで続く園 (幼木園、高接園、隔年交互結実栽培園等) では、無機銅剤 (クレフノン 200 倍加用) による定期的 (20~25 日間隔) な薬剤散布を行う。

(2) 銅水和剤 (クレフノン 200 倍加用) にジマンダイセン水和剤を加用すると銅水和剤の防除効果が低下するので控える。

(3) 発病した枝や葉は伝染源となるので除去する。ただし、強剪定は枝が遅くまで伸長し、本病にかかりやすい期間が長くなるので行わない。

(4) 台風の襲来等強風雨が予想される場合は、7日前~前日までに必ず散布を行う。

2. 黒点病

1) 予報の内容

発生量：平年より多い (前年より多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査 (図1 参照)

発生果率：27.8% (平年3.7%、前年6.5%)

平年比：多 (+) 前年比：多 (+)

(2) 8月の気象予報

並発生の条件 (±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項参照。

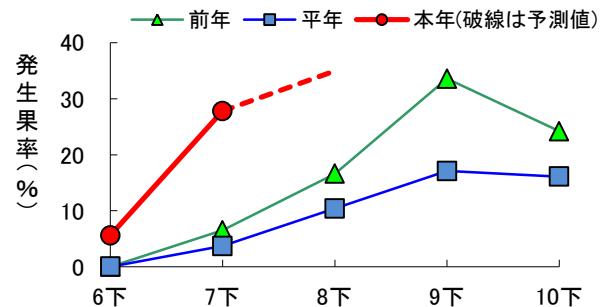


図1 カンキツ黒点病の発生推移

3. ミカンハダニ

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ①巡回調査（図1参照）
発生葉率：5.0%（平年2.0%、前年9.4%）
平年比：やや多（±～+） 前年比：少（-）
 - ②8月の気象予報
並発生の条件（±）
 - 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 殺ダニ剤に対する抵抗性の発達を避けるため、同じ系統の薬剤は年1回の散布とする。また、前年使用した殺ダニ剤は散布しない。
 - (2) 低密度時（寄生葉率30%未満または1葉当たりの雌成虫の数が0.5～1頭）に薬剤散布を行う。

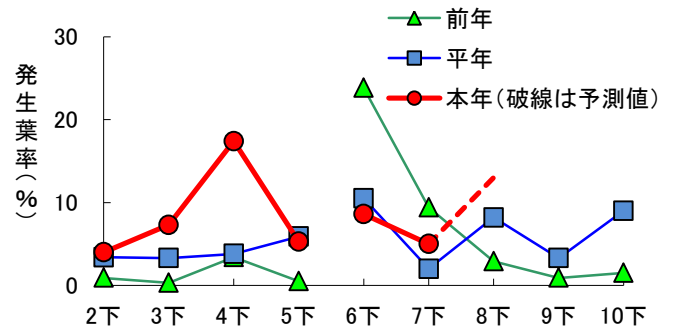


図1 ミカンハダニのカンキツでの発生推移
(注：5月下旬までは旧葉、6月以降は新葉を調査)

4. チャノキイロアザミウマ

- 1) 予報の内容
発生量：平年並（前年よりやや多い）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ①巡回調査（図1参照）
発生果率：0%（平年1.3%、前年0.3%）
平年比：やや少（-～±） 前年比：並（±）
 - ②黄色粘着トラップ（図2参照）
平年比：少（-） 前年比：少（-）

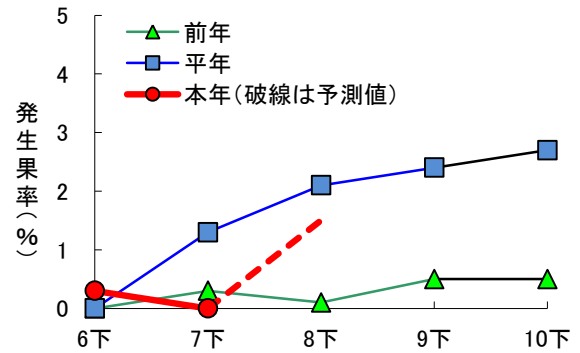


図1 チャノキイロアザミウマのカンキツでの発生推移

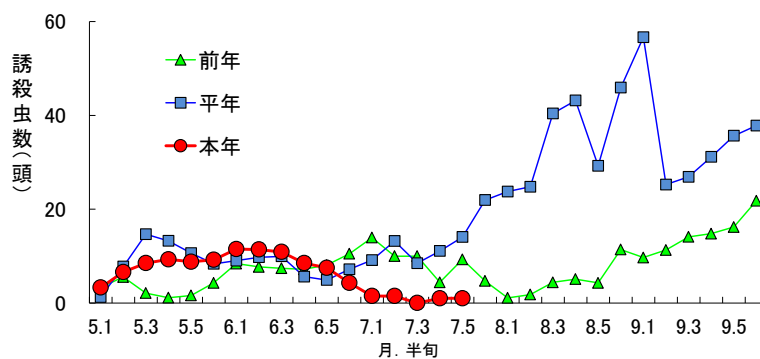


図2 黄色粘着トラップによるチャノキイロアザミウマの誘殺数の推移（果樹試験場調査）

- (2) 8月の気象予報
気温が高く、多発生の条件（+）
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 特記事項参照。

ナシ

巡回調査 (6 圃場)
7月20日



1. ナシヒメシクイ

1) 予報の内容

発生量：平年より多い (前年より多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①フェロモントラップ (図1 参照)

平年比：並(±) 前年比：並(±)

巡回調査圃場の様子

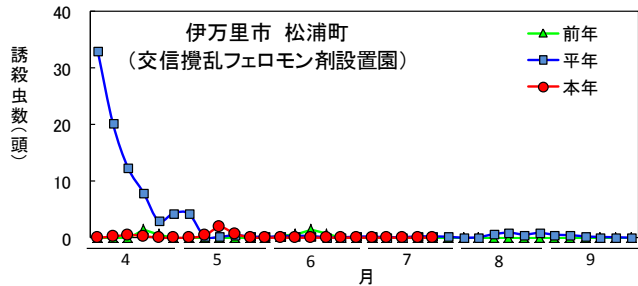
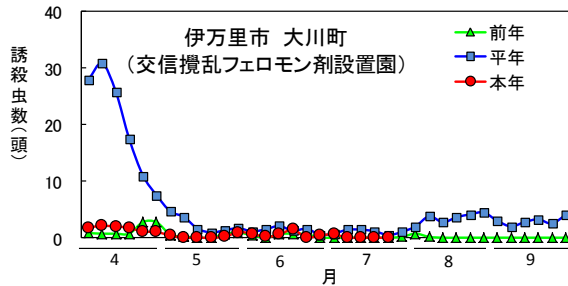
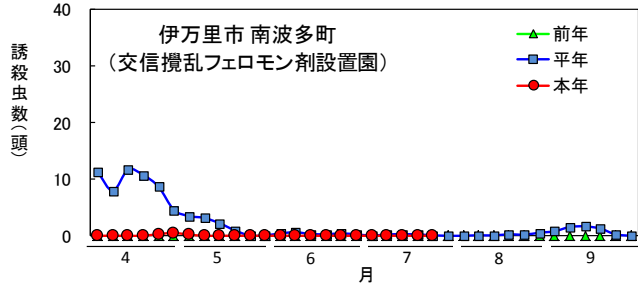
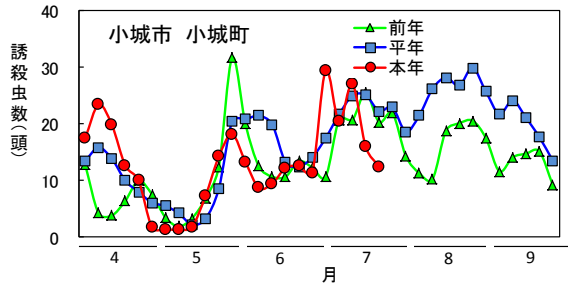


図1 フェロモントラップによるナシヒメシクイの誘殺数の推移 (果樹試験場、西松浦農業改良普及センター調査)

②サクラに設置したフェロモントラップ (表1)

サクラに設置しているフェロモントラップ (伊万里市3か所) での、7月第1~5半旬までの誘殺数は前年並(±)。

表1 サクラに設置したフェロモントラップにおけるナシヒメシクイの誘殺数 (頭)
(西松浦農業改良普及センター調査) ※7月第1~5半旬の合計値

地点名	H26年度	H27年度	H28年度
南波多町	1	4	0
大川町	17	10	32
新天町	120	54	56

(2) 8月の気象予報

気温が高く、多発生の条件(+)

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 防除薬剤として、合成ピレスロイド剤やネオニコチノイド系剤を使用するが、ネオニコチノイド系剤については、ハマキムシ類に対する効果が劣るので注意する。
- (2) 使用する薬剤の選定 (収穫前使用日数や汚れ) には十分に注意し、収穫まで7~10日毎に薬剤散布を行う (交信攪乱フェロモン資材設置圃場では10~14日間隔で薬剤散布を行う)。

2. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生葉率：2.3%（平年1.6%、前年0.7%）

平年比：並（±） 前年比：やや多（±～+）

(2) 8月の気象予報

気温が高く、やや多発生の条件（±～+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 殺ダニ剤に対する抵抗性の発達を避けるため、同じ系統の薬剤は年1回の使用とする。また、前年使用した殺ダニ剤は使用しない。

(2) ハダニ類は高温乾燥で急増するので、低密度時（発生葉率10%未満または1葉当たりの雌成虫数0.5頭以下）に防除を行う。

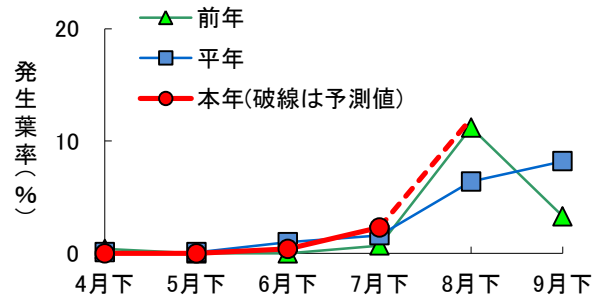


図1 ハダニ類のナシでの発生推移

ブドウ

巡回調査（6圃場）
7月15～21日



巡回調査圃場の様子

1. ベと病

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生葉率：3.3%（平年9.4%、前年0.8%）

平年比：やや少（-～±） 前年比：並（±）

(2) 8月の気象予報

並発生の条件（±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 防除効果を高めるために、棚面の上からも散布する。

(2) その他は、特記事項を参照する。

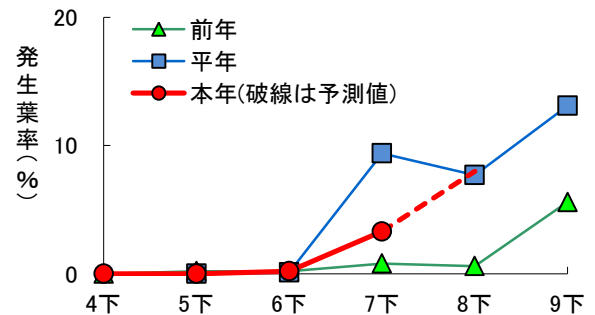


図1 ブドウベと病の発生推移

果樹全般

1. カメムシ類（本文掲載）

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年よりやや少ない）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①予察灯（図1参照） 平年比：少（-） 前年比：少（-）

②フェロモントラップ（図2参照） 平年比：少（-） 前年比：やや少（-～±）

③ヒノキ毬果における寄生数（表1参照、7月15～21日調査）

成幼虫数平均：0.8頭（平年13.2頭、前年7.6頭） 平年比：少（-） 前年比：少（-）

④ヒノキ毬果における口針鞘数（表1参照、7月15～21日サンプル採取）

口針鞘数平均：0.1本/果（平年1.9本、前年0.9本） 平年比：少（-） 前年比：やや少（-～±）

(2) 8月の気象予報

気温が高く、多発生の条件〈+〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生量は地域によって異なるため、園内をこまめに見回って、飛来状況の把握に努め、寄生が認められた場合には、直ちに防除を実施する。
- (2) 果樹カメムシ類は、樹高の高い樹木に一旦飛来し、その後果樹園に飛来する傾向があるので、防風樹等は必要以上に高くないように剪定をする。
- (3) 合成ピレスロイド剤等を散布するとハダニ類やカイガラムシ類の異常増殖（リサージェンス）を生じる場合があるので、これら害虫の防除対策も実施する。
- (4) 県内各調査地点における誘殺状況の推移については、佐賀県農業技術防除センターHPの「[病害虫データ情報](#)」を参照する

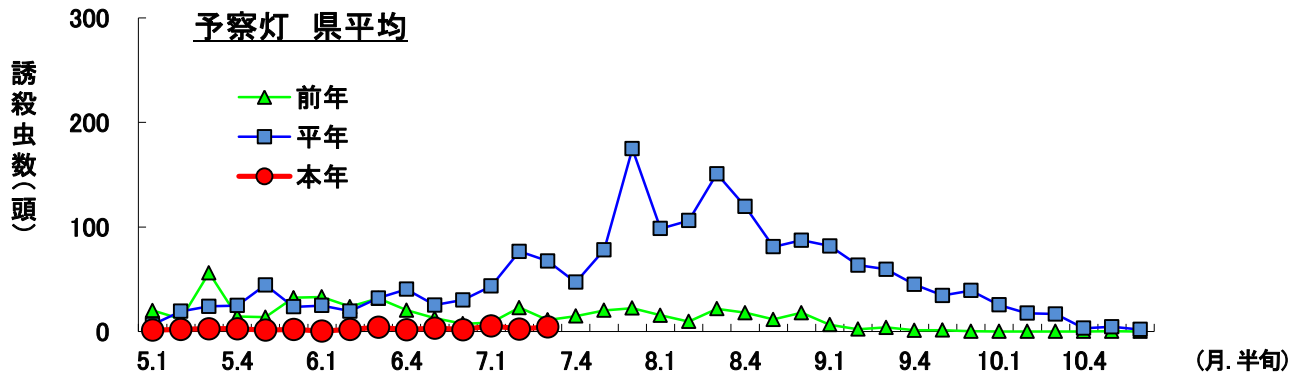


図1 予察灯（佐賀市、小城市、太良町）による果樹カメムシ類の平均誘殺数の推移

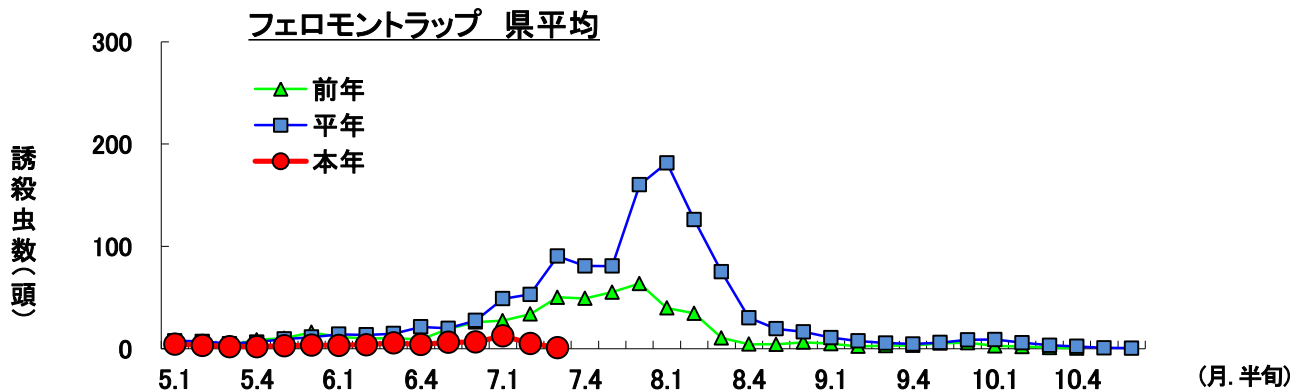


図2 フェロモントラップ（小城市、鹿島市、伊万里市、唐津市浜玉、唐津市鎮西、基山町）による果樹カメムシ類の平均誘殺数の推移

表1 ヒノキ毬果における果樹カメムシ類寄生虫数及び口針鞘数

No.	調査地	ヒノキ毬果における寄生状況			離脱予想時期 (各調査日から算出)	口針鞘数 7月下旬	ヒノキ毬果 1) 着果程度
		成虫 ¹⁾	幼虫	合計			
1	上峰町	-	-	-	-	-	極少
2	神埼市	0	0	0	9月2半旬頃～	0.1	やや少
3	小城市	1	0	1	9月3半旬頃～	0.1	やや少
4	多久市	-	-	-	-	-	極少
5	唐津市 1	0	2	2	9月2半旬頃～	0.1	やや少
6	唐津市 2	0	0	0	9月3半旬頃～	0.2	中
7	伊万里市 1	0	0	0	9月3半旬頃～	0.0	少
8	伊万里市 2	2	0	2	9月3半旬頃～	0.0	やや多
9	伊万里市 3	-	-	-	-	-	極少
10	白石町	1	0	1	9月3半旬頃～	0.1	中
11	鹿島市 1	0	0	0	9月3半旬頃～	0.1	中
12	鹿島市 2	0	0	0	9月3半旬頃～	0.1	中
13	鹿島市 3	1	0	1	9月3半旬頃～	0.0	中
14	太良町 1	0	0	0	9月3半旬頃～	0.2	やや少
15	太良町 2	2	1	3	9月3半旬頃～	0.1	少
	平均	0.6	0.3	0.8	9月3半旬頃～	0.1	やや少
	平年	-	-	13.2	-	1.9	
	前年(H27年)	-	-	7.6	-	0.9	少

1)ヒノキ毬果着果程度:福岡総農試の達観調査法(一部改変)に基づいて調査

- ・極少:ほとんど結実が見あたらない
- ・少:梢頭部にわずかに結実
- ・やや少:梢頭部から中央部周辺にかけて結実した樹と梢頭部にわずかに結実した樹が混在
- ・中:梢頭部から中央部付近にかけて結実
- ・やや多:梢頭部から最下部にかけて全面的に結実した樹と全面的に結実しない樹が混在
- ・多:梢頭部から最下部にかけて全面的に結実
- ・極多:梢頭部から最下部にかけて全面的にブドウ状に結実

茶 巡回調査(7圃場)
7月15～21日

1. 炭疽病

1) 予報の内容

発生量: 平年並 (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査(図1参照)

発生葉数: 3.0枚(平年4.9枚、前年6.7枚)

(発生圃場率: 85.7%)

平年比: 並(+)
前年比: やや少(-～±)



巡回調査圃場の様子

- (2) 8月の気象予報
並発生の条件〈±〉
- 3) 防除上注意すべき事項
(1) 開葉初期の防除を徹底する。

2. カンザワハダニ

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや多い（前年よりやや少ない）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 巡回調査（図1参照）

発生葉率：0%（平年0.6%、前年0.3%）

（発生圃場率：0%）

平年比：やや少〈一〜±〉 前年比：並〈±〉

(2) 8月の気象予報

気温が高く、多発生の条件〈+〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 生息部位である葉裏へ薬液が十分にかかるよう丁寧に散布する。
- (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一薬剤は年一回の使用とする。

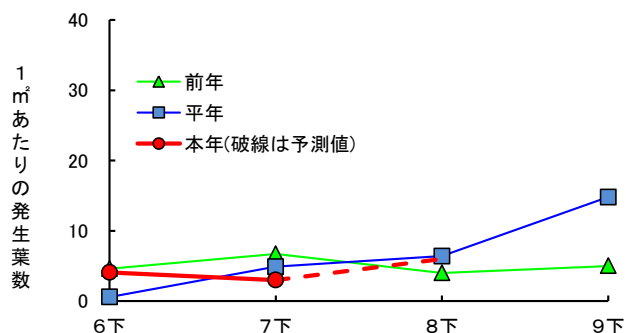


図1 炭疽病の発生葉数の推移

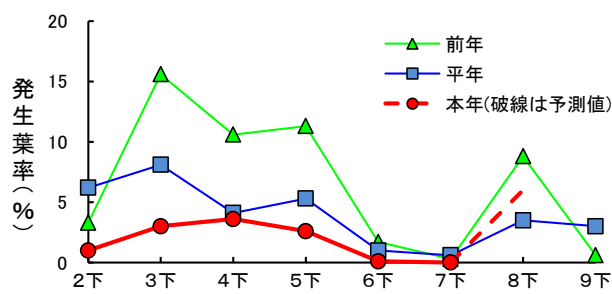


図1 カンザワハダニの茶での発生推移

3. クワシロカイガラムシ

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 巡回調査（図1参照）

発生株率：2.1%（平年11.3%、前年9.2%）

（発生圃場率：28.6%）

平年比：やや少〈一〜±〉 前年比：やや少〈一〜±〉

(2) 8月の気象予報

気温が高く、多発生の条件〈+〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 8月は成虫の発生時期であるため、園内の発生状況をよく観察し、9月の幼虫ふ化最盛期に防除を行う。

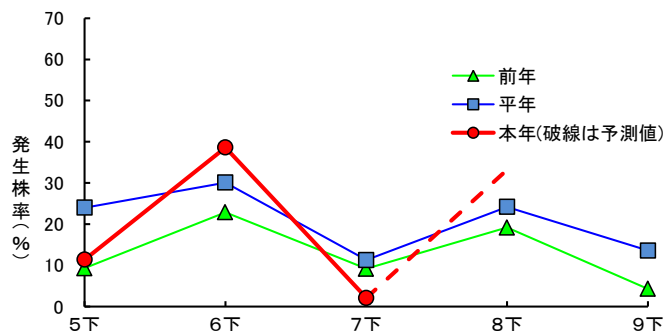


図1 クワシロカイガラムシの茶での発生推移

4. チャノミドリヒメヨコバイ

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 巡回調査（図1参照）

発生虫数：1.4頭（平年2.8頭、前年1.0頭）

（発生圃場率：57.1%）

平年比：やや少〈一〜±〉 前年比：並〈±〉

(2) 8月の気象予報

気温が高く、多発生の条件〈+〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 幼虫は葉裏に生息することが多いため、葉裏へ薬剤が十分にかかるよう丁寧に散布する。

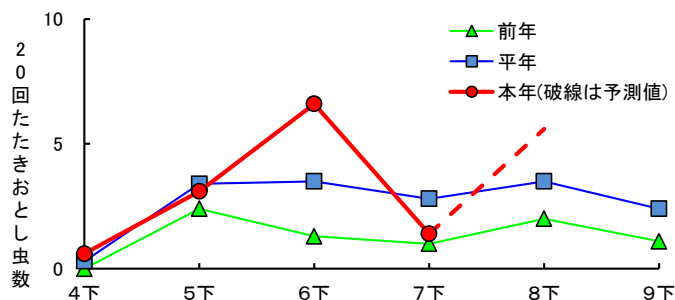


図1 チャノミドリヒメヨコバイの茶での発生推移

- (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。
- (3) その他については、特記事項を参照する。

5. チャノキイロアザミウマ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生虫数：15.7頭（平年13.5頭、前年6.5頭）

（発生圃場率：85.7%）

平年比：並〈±〉 前年比：やや多〈±～+〉

②フェロモントラップ（図2参照）

平年比：やや少〈-～±〉 前年比：並〈±〉

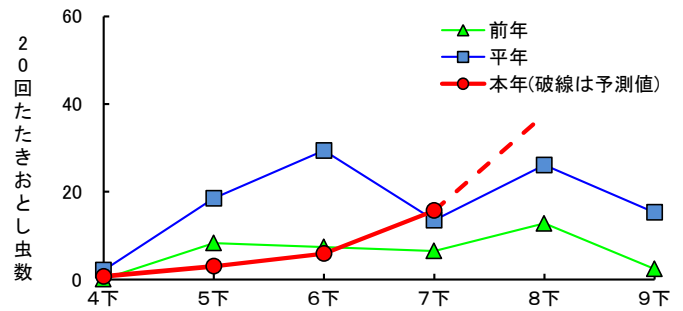


図1 チャノキイロアザミウマの茶での発生推移

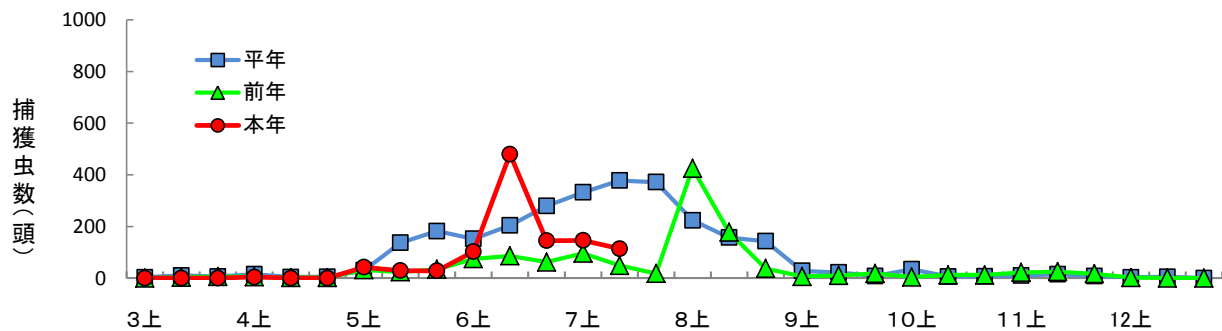


図2 吸引粘着トラップによるチャノキイロアザミウマの捕獲虫数の推移
（嬉野市嬉野町、茶業試験場調査）

(2) 8月の気象予報

気温が高く、多発生の条件〈+〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。
- (2) その他については、特記事項を参照する。

6. チャノココクモンハマキ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生葉数：0.1枚（平年2.5枚、前年2.5枚）

（発生圃場率：14.3%）

平年比：やや少〈-～±〉 前年比：やや少〈-～±〉

(2) 8月の気象予報

気温が高く、多発生の条件〈+〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。
- (2) その他については、特記事項を参照する。

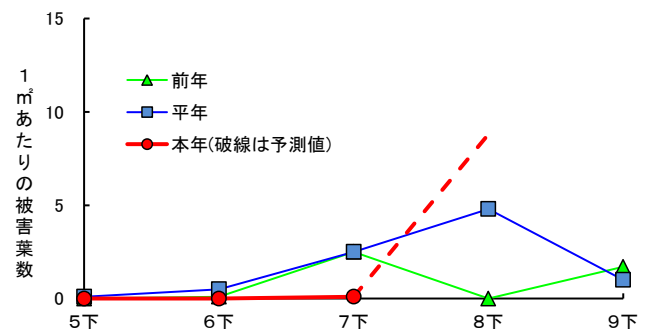


図1 チャノココクモンハマキの被害葉数の推移

全国・佐賀県で多発生している病害虫及び新たに発生した病害虫

主に6月25日～7月25日までに発表されたもの

警報・注意報（重要な病害虫の多発生が予想され、早めに防除する必要があるときに発表）

作物名	病害虫名	九州・沖縄・山口		その他の都道府県	
		注意報	警報	注意報	警報
水稲	斑点米かみシ類			6/28 福井県 6/29 新潟県 6/29 福島県 7/1 千葉県 7/14 岐阜県 7/14 石川県 7/14 滋賀県 7/15 愛知県 7/19 長野県 7/21 三重県	
	いもち病	7/15 山口県		6/30 高知県 6/30 愛媛県 7/21 三重県 7/22 福島県	
小麦	なまぐさ黒穂病			7/14 北海道	
小豆	マメアブラムシ			7/7 北海道	
サトウキビ	黒穂病	7/1 沖縄県			
サトウキビ	タイワツチイゴ	7/1 沖縄県			
野菜類・花き類	ハスモンヨトウ			6/30 神奈川県	
キュウリ	炭疽病・べと病			7/1 香川県	
ばれいしょ	疫病			6/20 北海道	
モモ	せん孔細菌病			7/7 大阪府	
カキ	炭疽病			7/12 香川県	
カキ	かきノハムシガ			7/21 岐阜県	

特殊報（新たな病害虫が発生した時などに発表される）

作物名		病害虫名	発表日及び発信元
野菜	ネギ・ニンジン	クロバネキノコバエ科の一種	6/28 埼玉県
	ナス	ナスコナカイガラムシ	7/15 千葉県
	ローズマリー	ヨコバイ (国内未記録種: <i>Eupteryx decemnotata</i> Rey)	7/7 千葉県
果樹	ブルーベリー	ブルーベリータマバエ (仮称)	7/21 富山県
	ブドウ	リーフロール病 (葉巻病)	7/22 新潟県
花き	トルコギキョウ	えそ輪紋病 (IYSV)	7/4 京都府
	クルクマ	青枯病	7/20 沖縄県